

高知市の
右城さん

短大卒で工学博士

愛媛大 規定変え初の授与

短大卒で高知市の建設コンサルタンツ会社に勤める右城猛さん(四七)が三十一日、愛媛大から工学博士の学位を受ける。論文のテーマは「剛性擁壁の合理的な土圧評価法と落石の運動に関する研究」で、仕事現場で抱いた疑問点をコツコツと工学的に解明、その努力が実を結んだ。同大が短大卒業者に博士号を認定するのは初めてで、後進の大きな励みになりそうだ。

擁壁の土圧研究 仕事現場の疑問点解明

右城さんは高知工業高校を卒業後、県内の大手建設会社に入社。一年後に徳島市内の経営コンサルタンツ会社に移った。二十三歳の時、徳島大学工業短期大学部に入社。昼間は働きながら、夜学で土木工学を学んできた。

昭和三十二年に高知市の「第一コンサルタンツ」に入社、現在は常務を務めている。職場では、山の斜面や道路などの擁壁の設計に携わってきたが、もともと研究が好き。仕事中に抱いた疑問

や課題はとことん探究してきた。

その結果、平成三年に、擁壁の安全性を確保するために必要な、擁壁内側の土が擁壁に及ぼす圧力(土圧)を科学的に計算する方法を確立した。

「建設省の計算法で設計すると、過度の安全対策が講じられ、建設コストが高くなる。私の計算法なら、安全を確保しながらコストを一〇%削減できる」と、自信を持つ成果だ。

また、落石のパターンをシミュレーションで予測できるシステムも開発。県内の一部擁壁や落石対策には、既に右城さんの研究が応用されている。

論文による博士号の獲得は、愛媛大工学部の八木則男教授から勧められ、この二種類の研究をまとめ、全三百三十四頁。昨年

十月から半年かけて作成し今年三月に提出した。

ところが、一般的に大学の学位資格審査規定は、学士(四年制大学卒業)以上の資格が必要。同大の場合も同様で、審査は難航した。それでも、これまでの長年の研究歴が評価され、同大は七月に審査規定を改定。二週間前によく学位の授与を決めた。

右城さんは「高知は私たちの研究を実際に受け入れ、導入してくれる風土がある。だから研究を深めることができた」と振り返る。そして「既に大学を出た人、ましてや短大卒の人は、博士なんて遠い存在だと思います。私もそうでした。でも、身の回りには未知の分野や疑問があふれています。コツコツと探っていれば、いつかは報われる」と、後進の技術者らにエールを送る。

学位授与式は三十一日、松山市の愛媛大工学部で行われる。



「疑問をコツコツと探っていれば、いつか報われる」と話す右城さん(高知市高須新町の第一コンサルタンツ)

地域わんぱく